

学びの広場



京都市教育委員会
教員養成支援室

令和7年2月22日/3月1日

No.10

2月8日(土) 授業実践講座①

【講義】各校職種の教科・領域における「授業づくりのポイント」 【学習指導案作成】

全8回となる京都市教育学講座を終え、京都教師塾の最後のカリキュラムである授業実践講座①②が始まりました。授業実践講座①では、総合教育センターの指導主事による講義と指導案作成の演習を通じて、よい授業づくりのためのポイントや指導者として大切にしなければならない視点を学びました。講義後の分散会では、指導案作成の過程で疑問に思ったことを積極的に指導主事に質問したり、塾生同士でめあてや中心発問などについて活発に議論したりする姿が見られました。本日から授業実践講座②が始まりますが、うまくいった・いかなかったという結果に終始するのではなく、教材研究や指導案作成、実際に授業をする過程で考えたことや学んだことを、教職を目指す自分自身の今後に活かしていくという視点も大事にしてほしいと思います。

2月8日【午前中】



2月8日【午後】



特別講座⑤ 学校指導課 安藤 昇 参与 『京都市の人権教育』

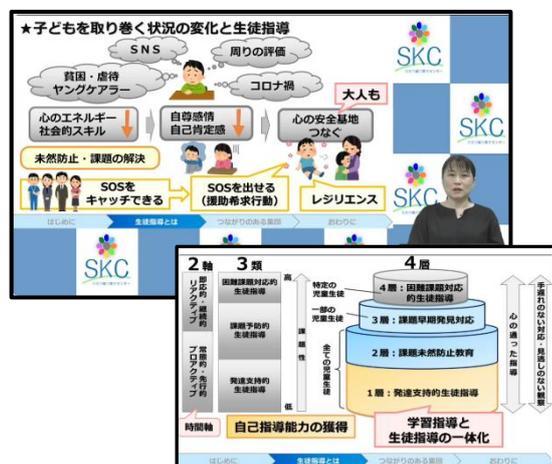
特別講座⑤では、京都市における人権教育についてご講義いただきました。京都市の人権教育の目的として「人権という普遍的文化の担い手の育成」をあげられ、そのためには教師自身が人権感覚を常に磨く必要があると説かれました。教師として『一人一人の子どもを徹底的に大切にすること』ためには、「子どもの背景を知ること」や「保護者懇談会等を通して、学校での人権教育の取組を発信し、人権教育に関する保護者との連携を図ること」の大切さを話されました。この講義を通して、「先生は私のことを大切にしてくれている」と児童生徒が感じられるように、どのようなことを大切に日々関わっていったらいいかをじっくりと考えたり、社会の様々な人権課題について関心をもち、正しく知ろうとしたりすることを意識して欲しいと思います。



特別講座⑥ 生徒指導課 赤井 範子 副主任指導主事

『つながりのある集団づくり ～いじめ・不登校の未然防止の取組～』

特別講座⑥では、「生徒指導とは」「つながりのある集団づくりに向けて」というテーマでご講義いただきました。生徒指導提要 京都市版デジタルリーフレットをもとに、「子どもたちの将来に向けて、指導者が子どもたちに働きかけていくこと、そして何か問題行動が起こったときだけではなく、あらゆる場面・時間において働きかけ、指導者は伴走者として子どもたちを支えていくこと」が、現在求められている生徒指導であることを説かれました。また、子どもたちが安心して笑顔で学校生活を送れるよう、指導者が「つながりのある集団づくり」を意識していくことの大切さを、実践例をもとにお話いただきました。最後には、子どもの声に耳を傾けたり、子どもの変化をキャッチしたり、あたたかい言葉をたくさんかけたりすることで、子どもが自分は大切にされていると感じられるような先生になってほしいとエールを送っていただきました。



卒塾生アンケートについて

授業実践講座②(2月22日/3月1日)において、別紙『第19期京都教師塾 卒塾生アンケートのお願い』を配布しました。授業実践講座②の模擬授業終了後、QRコードを読み込み、アンケートに答えてください。授業実践講座②に参加できない塾生の方にも、『卒塾生アンケートのお願い』をメールにてお知らせします。本アンケートは、今後の京都教師塾の運営に活かすために行うものであり、その他の目的には使用しませんので、率直な思いや考えを回答してください。

※回答期限: 3月31日(月)

3月22日(土) 卒塾式について【9時20分開始 13時終了】



【講義】(永松ホール) 中永 健史 京都教師塾塾長

『市民・地域とともに進める京都の教育改革 ～信頼される教員～』



【分散会】(各分散会会場) 各組に分かれてグループ協議を実施



【卒塾式】(永松ホール) 修了証書授与

式辞 稲田 新吾 京都市教育長
卒塾の言葉 (卒塾生代表)

※スーツに準じた服装で来てください。
昼食時間は設定していませんので、ご了承ください。